

音楽

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

小学校 第6学年 音楽科 学習指導案

山形大学
教授 佐川 馨

題材名 セン律の動きや強弱を生かしながら表情豊かに歌い合わせよう（3時間）

**題材の
ねらい**

曲想と声部の役割など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、旋律や音楽の縦と横との関係などが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付け、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する。

**本時の
ねらい**

曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解するとともに、旋律や音楽の縦と横との関係などが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する。

指導時期 10月～11月

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

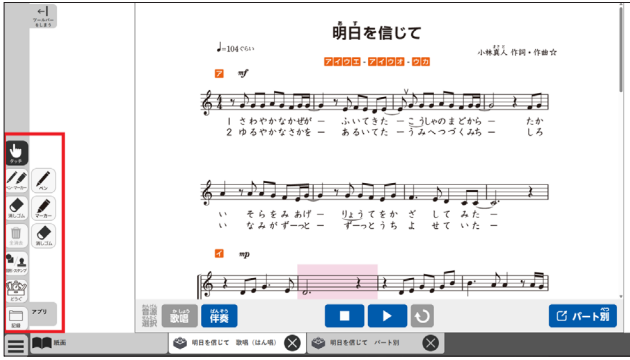
「明日を信じて」は、教科書の楽譜の⑦の言葉のリズムを生かして自分や友達に語りかけるように歌う部分、⑧の二声部に分かれた歌声の掛け合いが自分と仲間の気持ちを高める部分、⑨の気持ちの高まりが明日を信じる豊かなハーモニーの重なりへとつながる三つの部分からなる。歌詞と一体になった旋律の流れや曲の構成は、友達と声を合わせて歌うことの喜びとともに「こういうふうに歌いたい」という豊かな音楽表現を求めようとする気持ちを自然に引き出す教材である。

「指導者用デジタル教材」を活用し、三つの部分の曲想と音楽の構造との関わりを「耳と目で捉えながら思考判断する音楽学習」を進めることによって、子どもたちが曲の魅力を感じ取ることや、音楽の構造をより深く理解することが期待される。本題材のような合唱曲の表現を工夫する学習には最適のツールとなる。

本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 「目次を開く」から「明日を信じて」のページを表示する。	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 前時を振り返り、主旋律（上声部）を歌う。	● 「明日を信じて」の「歌唱」アイコンをクリックして主旋律の楽譜を表示する。  ● 「伴奏」の音源に合わせて主旋律を歌う。 
	● 二声部に分かれた ①・② の、下声部の音を確認して歌う。	● 「パート別」をクリックして下パートの音を確認し、下パートの範唱に合わせて音取りをする。  
展開	● 二つのパートに分かれて、パートの関わり方を捉えながら二部合唱をする。	● ページ下部の「歌唱」のタブから「伴奏」を選んでクリックする。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	● [ア]・[イ]・[ウ] それぞれで、旋律や強弱、縦と横の関係、歌詞の内容がどのように表されているか考える。 ● [ア]・[イ]・[ウ] を、どのように歌うか考える。	 ● パート別のページを活用し、部分ごとに楽譜や範唱の音源を示し、児童の意見を引き出す。 ● 話し合いの過程では「ツールバー」で楽譜を拡大したり、ペンやマーカーを使ったりして加筆していく。 
まとめ	● 話し合ったことを生かして表現を工夫しながら歌う。	● 楽譜に書き込んだ児童の意見は保存して次時に活用する。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

合唱活動では限られた時間の中で効率よく音取りをし、自分の声部と他の声部との関わりを音楽の流れの中で捉えながら表現を工夫することがポイントとなる。「指導者用デジタル教材」を用いることによって、範唱の音源を譜例とともに確認したり、他のパートとの関わりを聴き取ったり感じ取ったりしながら効率よく学習することが容易となる。また、表現を工夫するために話し合う際には、楽譜を拡大して示しながら意見交換をしたり、画面上の楽譜にペンなどを使って書き込み、必要に応じて範唱の音源で表現を確かめながら歌い方を考えたりすることもできる。

「指導者用デジタル教材」の活用は、音楽科の限られた学習時間を効率よく使い、児童に音楽の楽しさや喜びを味わわせるための鍵になると考える。